

2022年度事業報告書

概 況

本年度は、新型コロナウイルス感染症への各種対応が変化する中、引き続き公益財団法人として広く公益に寄与する事業運営を行うべく、育英事業の適切、かつ円滑な推進を図るとともに、近年の教育費等の増高や厳しい資産運用の環境を踏まえて、事業基盤の一層の強化を図り、事業内容の充実・改善に努めた。

I. 事業状況

1. 学資給与事業

本年度の学資給与事業は、前年度と同様に、幼児給与金については月額12,000円、小学生給与金は月額13,000円、中学生給与金は月額24,000円、高校生等給与金（特別支援学校含む）は月額30,000円、大学生等給与金は月額50,000円を給与した。

また、入学記念品代として、小学校新入生については1人70,000円、中学校及び高等学校等の新入生は1人50,000円、大学等新入生は1人150,000円をそれぞれ贈呈した。

（1）奨学生採用状況

奨学生願書は年4回受付け、これを奨学生選考委員会に諮問し、採用を決定した。

本年度の採用状況は、表－1のとおり、前年度からの継続奨学生147人と新規に24人を採用したが、大学生等に中途退学及び休学した者が計4人（異動欄）出たことから、年度末現在数は167人となった。

表－1 2022年度学資給与奨学生採用状況

（単位：人）

区 分	継続者	新 規 採 用 者					異 動 (増・減)	年 度 末 現 在
		第1回	第2回	第3回	第4回	計		
幼 児	4	0	0	0	0	0		4
小 学 生	26 (1)	0	0	1	1	2		28 (1)
中 学 生	37	0	0	0	1	1		38
高校生等	43 (4)	0	0	0	1	1		44 (4)
大学生等	37	17	0	2	1	20	△ 4	53
計	147 (5)	17	0	3	4	24	△ 4	167 (5)

注：（ ）の数字は特別支援学生で内数である。

（2）学資給与の実績

学資給与金は、3カ月分ずつ年4回に分け総額64,100,000円を送金した。この内訳は、幼児給与金576,000円、小学生給与金4,368,000円、中学生給与金10,656,000円、高校生等給与金16,200,000円、大学生等給与金32,300,000円である。

（3）入学・卒業記念品の贈呈

入学記念品として、総額3,860,000円を贈呈した。この内訳は、小学校新入生に210,000円、中学校新入生に600,000円、高等学校等新入生に650,000円、大学等新入生に2,400,000円である。

また、中学校卒業生（中学校を卒業し就業する奨学生）に対する卒業記念品の贈呈については、該当者はいなかった。

なお、これらの学資給与事業は基本財産運用益および修学助成資金積立資産（修学助成寄附金）をもって実施した。2022年度都道府県別奨学生数及び給与額は、別表(1)のとおりである。

2. 奨学金貸与事業

2019年度から学資給与事業へ一本化されたことにより、新規の貸与は発生しない。2018年度までの奨学貸与金については、規程に基づき返還手続き及び処理を行った。

奨学貸与金返還等の実績

奨学貸与金の本年度返還実績は、表－2のとおり総額18,534,700円である。

前年度末の奨学貸与金残高は238,729,970円、本年度奨学貸与金返還総額は18,534,700円で、本年度返還免除額は対象者2人で1,723,000円であることから、本年度末現在の奨学貸与金残高は218,472,270円となった。

表－2 2022年度貸与金返還等の状況

(単位：人、円)

区 分	実人数	金 額
A. 前年度末奨学貸与金残高	268	238,729,970
B. 本年度奨学貸与金返還総額 (内返還完了者)	147 (22)	18,534,700
C. 本年度奨学貸与金返還免除額 (特別免除) (免 除)	2 (2)	1,723,000 (1,723,000)
D. 本年度末奨学貸与金残高 (D = A - B - C)	244	218,472,270

3. 育英事業の推進に必要な事業

(1) 募 金 活 動

漁船海難遺児を励ます全国協議会や水産関係団体等の協力を得て、基盤強化を図った。

(2) 普及指導活動

ア. 「育英会だより」の発行

年4回各4,500部発行し、遺児家庭、JFグループ及び関係方面に広く配布した。

イ. 広報・募金コーナー設置

本年度は、新型コロナウイルスの感染症に対する行動制限の緩和等により、各種イベント等の開催が復活し、会場での広報・募金活動を再開することができた。

ウ. 奨学生・保護者交流活動の実施

毎年夏休みに実施している「ふれあい旅行」については、実施する方向で検討をしたが、新型コロナウイルスの影響により昨年に引き続き開催を見送った。

エ. 広報活動

事業の趣旨及び内容について広く一般国民の理解を得るため、機会あるごとに資料の配布や報道機関等の協力を得てPRを行い、募金及び「励ましおじさん・おばさん」の募集に努めた。

また、ホームページを更新して、情報発信の強化を図った。

(3) 実 態 調 査

中学校、高等学校等及び大学等の卒業生の進学・就職に関する動向等、卒業後の進路を調査した。

Ⅱ. 寄附金、基本財産、特定資産

1. 寄附金（修学助成寄附金）

（1）水色の羽根募金

本年度の寄附金は、新型コロナウイルスや世界的な物価高騰等の厳しい経済情勢の中、表－3のとおり49,874千円の実績となった。計画対比99.7%（計画50,000千円、前年実績38,578千円）

表－3 2022年度一般寄附金実績
(単位：円、%)

区 分	金額	構成比
J F グ ル ー プ 募 金	16,544,144	33.2
一 般 寄 附 金	33,330,085	66.8
合 計	49,874,229	100.0

（2）励ましおじさん・おばさん奨学資金

定期的に支援いただく「励ましおじさん・おばさん」については、前年同様に募集を行った結果2,736,000円となった。計画対比78.2%（計画3,500千円、前年実績、2,930千円）

なお、年度末現在数は78人（前年度77人）であった。

2. 基本財産

基本財産は、本年度期首額5,958,699,175円に対し、表－4のとおり本年度期末額5,950,151,640円となった。

表－4 2022年度期末基本財産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	5,958,699,175
投 資 有 価 証 券 償 還 額	420,000,000
投 資 有 価 証 券 購 入 額	410,865,000
投 資 有 価 証 券 当 期 償 却 額	587,465
本 年 度 期 末 額	5,950,151,640

3. 特定資産（修学助成資金積立資産）

特定資産の修学助成資金積立資産は、本年度期首額323,813,401円に対し、表－5のとおり本年度期末額349,755,820円となった。

表－5 2022年度期末特定資産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	323,813,401
本 年 度 増 加 額	71,763,594
本 年 度 減 少 額	45,821,175
本 年 度 期 末 額	349,755,820

本年度期末額349,755,820円の内訳は、投資有価証券115,107,947円、預貯金234,647,873円である。

以 上